

委員会視察研修報告

総務常任委員会

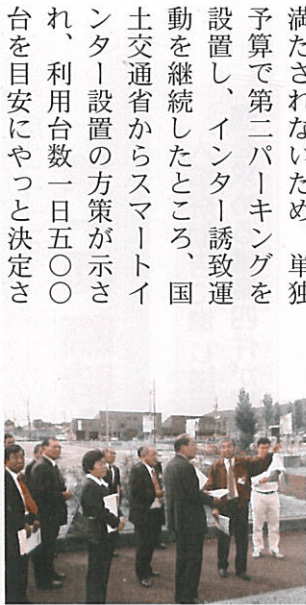
10月21・22日

「スマートインターチェンジを勉強」

委員長 黛 哲夫 議員

甘楽パーキングエリアに接続するETC専用のスマートインターチェンジを検討するため妙高市を訪問し「新井スマートインター」の計画から設置までの経緯など、インターチェンジのノウハウを見聞しました。

この地域は、妙高高原など観光と電子関連産業を抱えている利点もありましたが、上信越自動車道の計画段階から設置要望運動を続け、その結果「道の駅」に新井パーキングのみが設置されました。これでは市の要望が満たされないため、単独予算で第二パーキングを設置し、インター誘致運動を継続したところ、国土交通省からスマートインター設置の方策が示され、利用台数一日五〇〇台を目安にやっと決定さ



スマートインター視察

産業常任委員会

10月21・22日

「体験型農業を視察」

委員長 吉田暁宣 議員

飯山市は人口二万三千人。自然資源に恵まれ、仏壇作りや高級和紙（内山紙）及びアスパラガスの産地として有名です。スキー客が中心であった観光客減少対策として、グリーンツーリズムを始め、その後「ふる里回帰支援センター」へと進展しました。センター本部はNPO法人で東京・銀座にあります。

ふる里回帰とは「将来定年退職者がふる里を探すのではないか」と言うことで発足したとのこと。そこで、市では「いやまに住んでみませんか」



飯山市議場にて

今後、当町も遊休農地利用を図り、農業への転身を志す方へのアプローチや空家バンクを設置し、田舎暮らしの推進、農家と連携した「農作業体験」など、町外や県外からの集客を図り活性化に取り組んで行きたいと思っております。

社会常任委員会

10月26、27日

「大規模な環境研究所と統合中学校を視察」

委員長 長谷川儀平 議員

茨城県つくば市の国立環境研究所は、地球温暖化問題を始めた、循環型社会のリスクなどの研究を実施している大規模な施設でした。埋め立て塔の管理と水分補給で、

当町の最終処分場と同じような場面を作りバクテリアなどさまざまな研究をしていました。水質棟では、メダカ、ドジョウ、ミジンコ、バクテリアなどを飼育して



統合中学校を視察

新設校は規模も大きく、校舎には室内プールまでも備え、三三四名の生徒が学んでいます。二階建ての屋内運動場の一階は武道場、卓球場などがあり、大きな建物でした。統合中学校の通学エリアは「約一七〇平方キロメートル」と広く、わずか三、四人が徒歩で通学、残りはスクールバスと路線バスを利用して通学しています。総額四七億円の土地建物であるとのことでしたが校舎の位置は、市街地から離れた山合いすぎると思いました。